

# 坊やは人気者？

—物語における女兒と男児について比較文学的に考える—

どんな名優も子役と動物には勝てないと言われます。現在のCMでは犬より猫のほうが優勢に思えますが、児童文学において、女兒に比べ男児の主人公が多いとの指摘は以前からなされてきました。

子供向けの物語に限らず、ヒット作品に「可愛い坊や」が関わっている例は、オペラ『蝶々夫人』、歌舞伎『伽羅先代萩』、そして映画などの、特に「お涙頂戴」ものに認められましょう。

ではなぜ、(もちろん一般論として)「女兒」より「男児」の話を人は好むのでしょうか？

「小公女」より「小公子」のほうが、あどけなく微笑ましい？ 「不思議の国」を旅するアリスより、オリバー・ツイストのほうが、ハラハラドキドキさせてくれる？ またキリスト教文化圏では、聖母子像の影響も無視できません。

今回は、このように登場「男児」の特徴を考え、我々「受け手」の反応を探るとともに、彼らの「人気」のワケについて検討したいと思います。

日時 2016年12月3日(土) 14:00~16:00 (13:30 開場)

会場 大阪府立大学  
I-site なんば

講師 堀江 珠喜 (大阪府立大学教授)

- 対象 どなたでも
- 参加費 500 円 (大阪府立大学 学生・教職員は無料)

## 申込方法

①氏名(ふりがな)、②住所、③電話番号を記して、EメールまたはFAXで下記までお申し込みください。

申込先 大阪府立大学 女性学研究センター  
Eメール: joseigaku@gmail.com  
FAX: 072-254-9947

- 当日参加も可能ですが、資料準備の都合上、できるだけ事前にお申し込みください。
- お申し込みの際の個人情報、本講座の事務連絡、統計資料等の作成および本学公開講座等の案内以外に、一切使用いたしません。

問合せ先 大阪府立大学 女性学研究センター  
TEL: 072-254-9948  
(土日・祝日を除く、14:00~17:00)



【大阪府立大学 I-site なんば】南海なんば第1ビル 2F  
大阪市浪速区敷津東2丁目1番41号

- 南海電鉄「なんば駅(中央出口)」より徒歩約12分
- 地下鉄御堂筋線「なんば駅(5号出口)」より徒歩約15分
- 地下鉄御堂筋線・四つ橋線「大国町駅(1番出口)」より徒歩約7分
- 地下鉄堺筋線「恵美須町駅(1-B出口)」より徒歩約7分